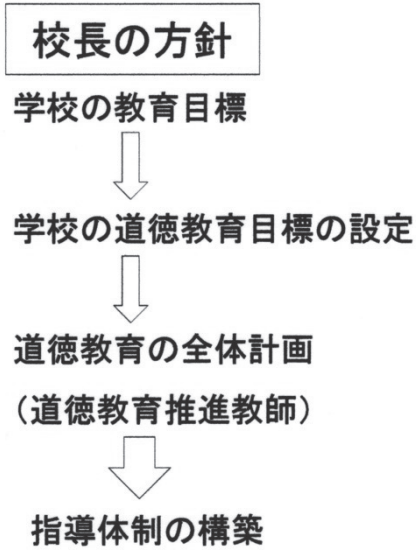


全体計画の意義と指導体制



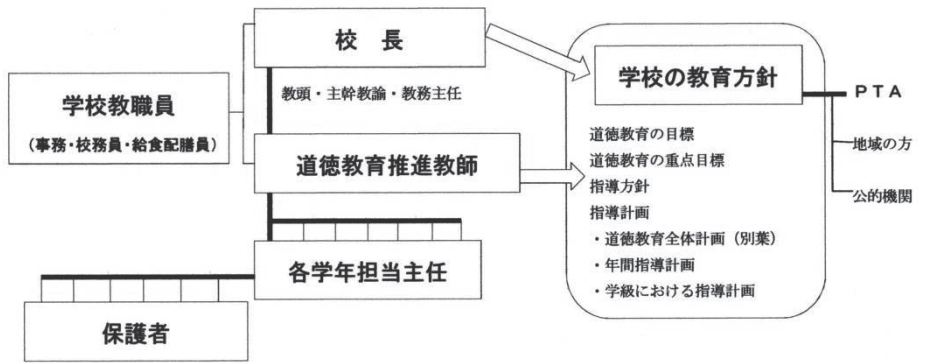
全体計画の意義

道徳教育は、その目標を踏まえ、道徳科を「要」としながら、学校の全教育活動で行うものである。全体計画を作成する際には、①校長の指導方針の明確化②道徳教育推進教師を中心に全教師による協力体制の整備が必要である。

全体計画とは、道徳教育の基本方針を示すとともに、その基本方針を具現化し、学校として道徳教育の目標を達成するために何を重点にし、各教育活動ではどのような役割分担をして関連を図るか、家庭や地域社会との連携をどのように進めていくのか等を示した教育計画である。

指導体制づくり

学校の全教育活動で道徳教育を行うために、家庭や地域社会との連携を明示しながら、全教職員が役割をもつ協力体制を構築する。

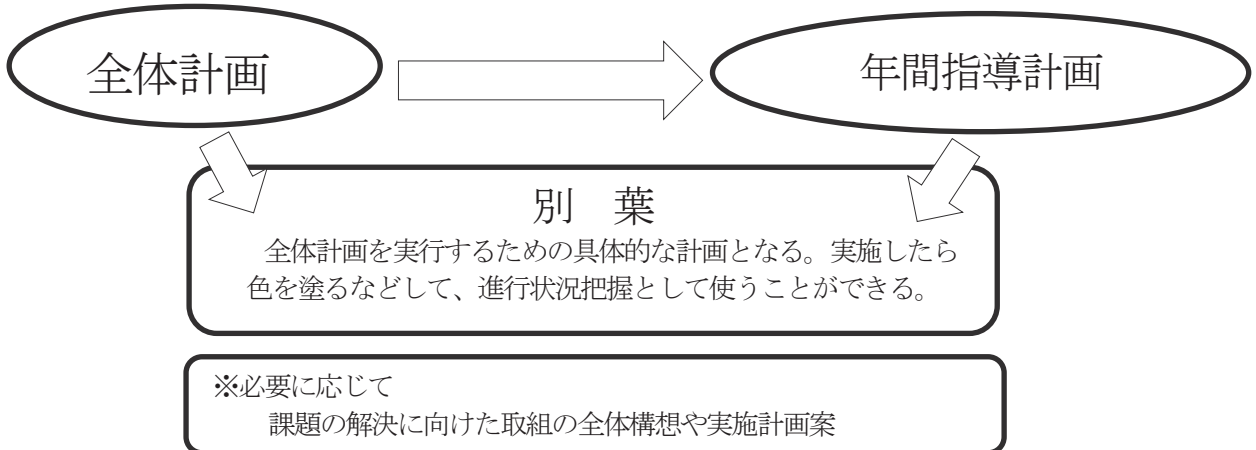


指導計画の在り方

指導体制に基づいて、全教職員が様々な場面で道徳教育の指導を意識して取り組むために、全体計画の別葉を作成する必要がある。

別葉の中に①各教科等における道徳教育に関わる「指導内容」と「指導時期」を整理する、②道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、③道徳教育の推進体制や家庭や地域社会との連携のための活動等がわかるもの、を加えることで年間を通して具体的に活用しやすいものになる。

また、必要に応じて、各学校が課題を解決するために、具体的な視点をもった取組の全体構想や実施計画案を用意すると、より実効性の高い全体計画にすることができる



1 具備しなければならない要件

(1) 全体計画（一覧表）

- ① 教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策
- ② 学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い【アンケート例】
- ③ 児童の実態と課題
- ④ 学校の教育目標、校長の道徳教育の方針、学校の特色を生かした道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
- ⑤ 道徳科の指導の方針
- ⑥ 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育の指導の方針、内容及び時期
- ⑦ 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針、内容及び時期
- ⑧ 学級、学校の間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針、日常的な学級経営を充実させるための具体的な計画、規律ある態度の育成
- ⑨ 家庭、地域社会、他の学校や関係機関との連携の方法
- ⑩ 道徳教育の推進体制

【アンケート例】

平成〇〇年〇月〇日

〇〇小学校 保護者様

道徳教育の充実に関するアンケート

〇〇市立〇〇小学校長 〇〇〇〇

初夏の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。

さて、今日、考え方や生き方が多様化している社会において、子どもたち一人一人が個性を發揮し、未来を拓いていく力を育成することが求められています。そして、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむため、「心の教育」「道徳教育」の充実が一層重要となっています。そこで、お子さんの健やかな成長を願い、保護者の皆様と今まで以上に手を携え、より一層の充実した教育活動を進めてまいりたいと考え、保護者の皆様のご意見をお聞かせください。つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、趣旨をご理解の上、下記アンケートにお答え下さいませ。お願い申し上げます。

この調査は、保護者の皆様のご意見を把握するためのものであり、研修以外の目的に使うことはありません。また、お子さんの成績や評価などにも一切関係ございません。

月 日()までに担任にご提出下さいませ。どうぞ宜しくお願い致します。

★(このアンケートを配布された)お子様の学年・性別 ()年 男・女

★回答される方の続柄
祖父 祖母 父 母 おじ おば その他()

★回答される方の年齢
20代 30代 40代 50代 60代 70代～

1 (このアンケートを配布された)お子様についてお聞かせ下さい。お子様についていると思われる心や態度を、下のア～スから選び、○で囲んでください。(いくつでも結構です。)これらの項目は、新学習指導要領の道徳の内容を、参考にしています。

ア 正しいと判断したことは自信を持って行い責任を持つ	イ 明るく誠実に生きる
ウ 自分ができることは自分でやり節度のある生活をする	エ 自分を知り、良い所を伸ばし、悪い所を改める
オ 目標を立て、努力する	カ 真理を大切にし、物事を探求しようとする
キ 相手を思いやり、誰にでも親切にする	ク お世話になっている人に感謝し、こたえる
ケ 礼儀正しく人に接する	コ 友達を信頼し、男女仲良く協力し合う
サ 広い心で、自分と違う立場や考えも大切にす	
シ 約束や社会のきまりを守り自他の権利を大切にし義務を果たす	ソ 家族を愛し、家族のために進んで役立つ
ス 公正・公平な態度で、誰に対しても差別をしない	チ 日本の文化・伝統を大事にする
セ 働くことの意義を理解し、公共のために進んで働く	テ 自他の生命を大切にす
ジ 先生や学校を大事に思いよりよい校風をつくる	ト 世界の文化を大切にし、世界の人々と親しむ
ズ 自然環境を大切にす	ナ 美しいものに感動する
ニ よりよく生きようとし、生きる喜びを感じる	ネ その他()

2 お子様は、特にまだ不足していると思われる項目がありましたら、左下のア～スから選んで、記号をお書きください。(いくつでも結構です。)

3 学校で、特に大事に願い、お子様に教えて欲しいものを左下のア～スから選んで、記号をお書きください。(いくつでも結構です。)

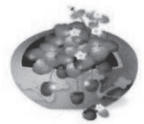
4 ご家庭で、心や態度、マナー、人としてのあり方などに関する約束ごとや、決まり、また、保護者の方がよくお子様にかける言葉などがございましたら載せてください。

5 学校で「道徳の授業」を参観されたことがありますか？

ある ない

6 学校(学級)での「道徳教育」「道徳の時間」について、ご感想、ご意見、ご要望などがありましたら、お聞かせください。

お忙しい中、アンケートにご協力頂きまして
ありがとうございました。



(2) 全体計画（別葉）

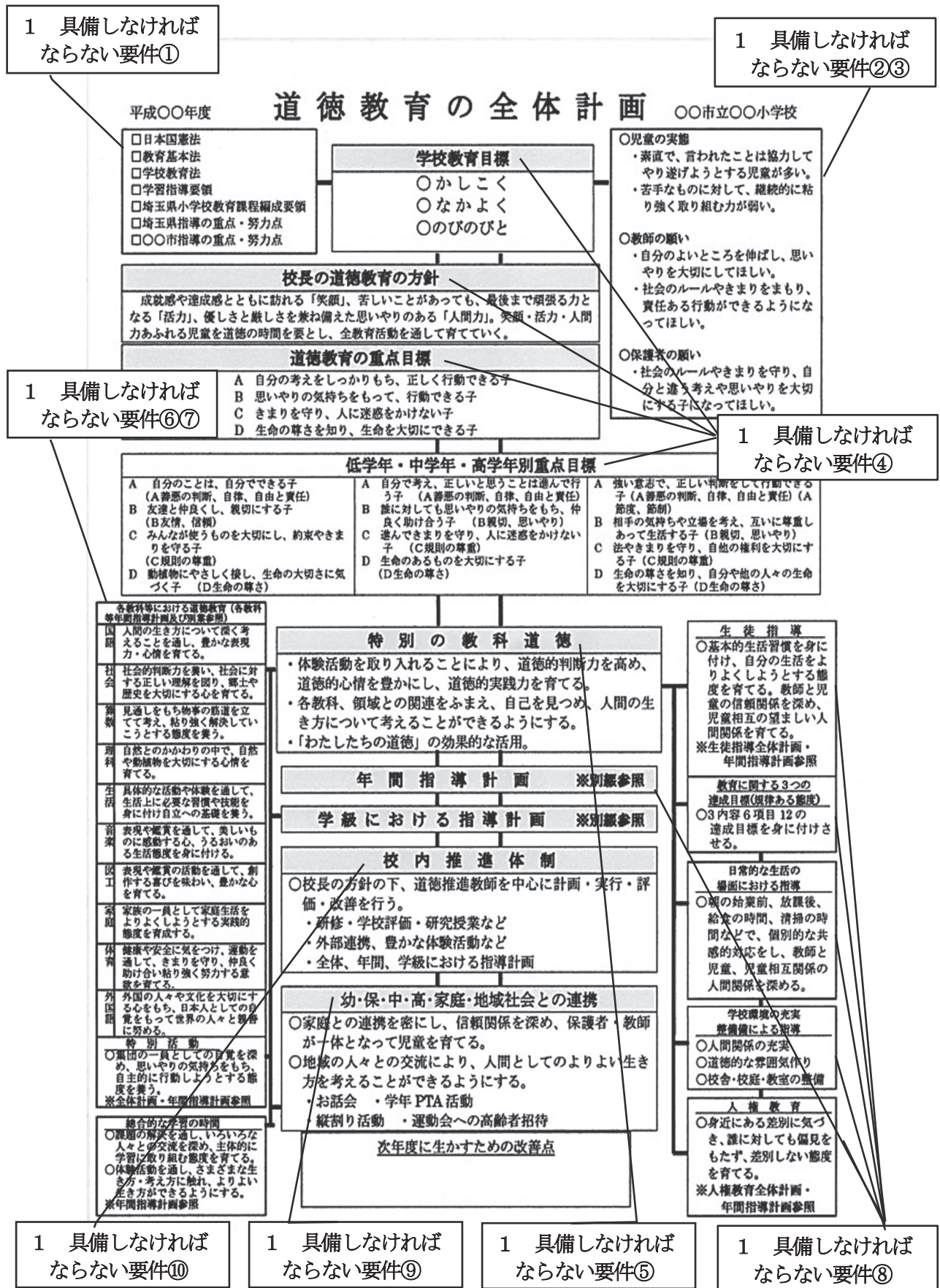
- ① 学校としてどのような児童を育成するのかを明らかにする。
例『相手を思いやり、規範意識のある子』
- ② 道徳教育の重点目標を明確にする。→『思いやり』『規範意識』
- ③ 重点目標に関わる内容項目を明確にする。→ [B親切, 思いやり] [C規則の尊重]
- ④ 当該の内容項目に関わる道徳科以外の指導を明確にする。
 - ・「社会科の施設見学で、規範意識の指導をしよう。」
 - ・「体育のボールゲームで、規則の尊重について指導しよう。」
 - ・「遠足の山登りで、公衆道徳について指導しよう。」 など
- ⑤ 道徳科以外の指導の内容及び時期を一覧表などで明確にする。
- ⑥ その他の内容項目についても同様に、道徳科以外の指導の内容及び時期を明確にする。
- ⑦ 重点目標として掲げた内容項目を中心とした、実施計画を作成する。

(3) 全体計画（学級における指導計画）

道徳教育の充実を図るためには、学級における道徳教育を充実させなければならない。そのために「学級における指導計画」の作成は不可欠である。「学級における指導計画」とは、全体計画を学級の実態に応じて具現化し、学級において教師や児童の個性を生かした道徳教育を展開するための指針となるものである。従って学級担任は、学校や学年の道徳教育の方針を受け、具備しなければならない要件を自ら考え、創意工夫しながら作成することが大切である。

2 具体例

(1) 全体計画 (一覧表)



(2) 全体計画 (別葉)

① 指導時期から見た別葉

道徳教育全体計画別葉 道徳の時間と各教科、領域の指導内容と時期との関連(1年)

××市立△△小学校

内容\月	4月	5月	6月	
低学年の重点目標	・生命を大切にすること[D生命の尊さ] ・友だちと仲良く助け合う[B友情、信頼] ・よいこと悪いことを区別してよいことを行う[A善悪の判断、自律、自由と責任] ・約束やきまりを守る[C規則の尊重]			
1年生にかかわる学校行事	入学式 [C]よりよい学校生活、集団生活の充実 身体測定 [A]節度、節制[D生命の尊さ] 避難訓練 [A]善悪の判断、自律、自由と責任 [D生命の尊さ]	新体力テスト [A]希望と勇気、努力と強い意志 家庭訪問 [C]家族愛、家庭生活の充実	プール開き [C]規則尊重[D生命の尊さ]	授業参観 [A]希望と勇気、努力と強い意志 [C]よりよい学校生活、集団生活の充実
特別の教科	道徳 「学校のたからもの」 [C]伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 「ふがひであいきつ」 [B]礼儀	「わたしも平つだよ」 [A]家族愛、家庭生活の充実 「かへんび」 [C]規則の尊重 「たかしくんの1日」 [A]節度、節制 「さんぽ」 [D]自然愛護	「マラソン」 [A]希望と勇気、努力と強い意志 「確保こー」 [B]親切、思いやり 「たびに出て」 [B]礼儀 「おそろい大すき」 [C]勤労、公共の精神	「黄色いペンチ」 [B]友情、信頼 「虫が大すき」 [D]自然愛護
国語	「なにかよし」 [B]友情、信頼 「みんなわたしのしく」 [B]礼儀	「おほなほな、よみたよ」 [B]礼儀 「はなしましよ、ききましよ」 [B]礼儀	「けむりのきしや」 [B]親切、思いやり [D]感動、畏敬の念 「なにが、かかっているのしょう」 [D]自然愛護	「おおきななぶ」 [B]友情、信頼 [C]勤労、公共の精神
算数	「10までのかず」 [A]節度、節制	「なんぼんめ」 [C]規則の尊重	「ふたごのへたり」 [C]規則の尊重 「たしざん」 [C]規則の尊重	「ひきざん」 [C]規則の尊重
生活	「ともだちいっぱい」 [B]友情、信頼 [C]よりよい学校生活、集団生活の充実 「がっこうたんけん」 [C]よりよい学校生活、集団生活の充実	「あんぜんなあるきかた」 [A]節度、節制 「はらのあそび」 [B]友情、信頼 [D]自然愛護 「たねまきのじゅんぴ」 [D]自然愛護 「たねまき」 [D]自然愛護 「ちいさなめ」 [D]自然愛護	「がっこうたんけん」 [C]よりよい学校生活、集団生活の充実 「まいにちのせわ」 [D]自然愛護 「がっこうのいきもの」 [D]自然愛護 [C]よりよい学校生活、集団生活の充実	「なつみあそび」 [D]自然愛護 「きらいなはな」 [D]自然愛護 「いきものぶんり」 [D]自然愛護 「きものたすき」 [D]自然愛護
音楽	「ひびく音楽」 うたでなにかよしになろう [B]友情、信頼 「うたでさんぽ」 [B]友情、信頼	「さんぽ」 [D]生命の尊さ	「ぼんぼんぼん」 [D]自然愛護 「かたつむり」 [D]自然愛護	「うた」 [D]自然愛護
図工	「すきなもののいっぱい」 [B]友情、信頼	「しぜんとなかよし」 [B]友情、信頼 [D]自然愛護 ひかりのくにのなかまたち [D]感動、畏敬の念		
体育	「体ほくし・多様な動き」 [B]友情、信頼 「かっこいい・リレー」 [A]希望と勇気、努力と強い意志 [B]友情、信頼 [C]規則の尊重	「リズム遊び」 [B]友情、信頼	「鬼遊び・ボール投げ遊び」 [B]友情、信頼 [C]規則の尊重 「固定施設」 [A]希望と勇気、努力と強い意志	「水遊び」 [A]節度、節制 [A]希望と勇気、努力と強い意志
地域・家庭との連携	入学式 避難訓練	家庭訪問		授業参観

1 具備しなければならない要件①②③

1 具備しなければならない要件⑥

1 具備しなければならない要件④⑤

② 内容項目から見た別葉

1 具備しなければならない要件⑦

「5 全体計画をより実効性の高いものにするために」参照

道徳教育全体計画別葉 道徳科と各教科等の内容項目と時期の関連 内容項目別(6年)

××市立△△小学校

高学年の重点目標	・美しいものに感動する心を持ち自然の生命を尊重する。 [D生命の尊さ][D感動、畏敬の念] ・思いやりを持ち、相手の立場にたって行動する。 [B親切、思いやり] ・誠実で責任ある行動をとる。 [A正直、誠実] ・社会の一員として公共のために役立つようとする。 [C勤労、公共の精神]
----------	--

内容\各教科等	道徳	特別活動			教科		
		学級活動(1)	学級活動(2)	クラブ児童会委員会	国語	社会	算数
A 主として自分自身に関すること	善悪の判断、自律、自由と責任	自主学习ノート[5月] うばわれた自由[1月]	学級の組織をつくらう[4月]				
	正直、誠実	曲美の交換ノート[4月] 手品師[11月]					
	節度、節制	心のプレーキ「くつそろえ」[5月]					
	個性の伸長	日本女性水上飛行機操縦士第1号-西崎キク[4月]		クラブ開始[5月] クラブ発表会[2月]	「ぼくの世界、きみの世界」[10月]		
	希望と勇気、努力と強い意志	道ひとすじに-依野玲子-[4月] 父の思いを受け継いで[3月]	学級活動の年間計画を立てよう[5月] 読書発表会の計画を立てよう[10月] 読書発表会の計画を立てよう[11月] 今年の日録発表会[1月] 集会の計画を立てよう[2月]	将来のわたし 卒業までの計画[1月]	「迷う」[5月] 「伊能忠敬」[2月] 「二一世紀に生きる君たちへ」[3月]		
真理の探究	盲目の学者-橋本一[6月] 天からの手紙[11月]	夏休みの体験発表会をしよう[9月] 卒業文集の内容を決めよう[12月]	読書の範囲を広げよう[10月]	「ぼくの世界、きみの世界」[10月] 「歴史を書こう」[10月] 「俳句・短歌を作ろう」[11月] 「伊能忠敬」[2月] 「先輩からの手紙-六年間を振り返って」[3月]	「江戸の文化と新しい学問」[9月]	対称な図形[4月] 分数×分数[5月] 分数÷分数[5月] 文字と式[6月] 比とその利用[6月] 図形の拡大と縮小[7月] 速さ[9月] 比例と反比例[10月] 円の面積[10月] 小数や分数の計算のまとめ[11月] 立体の体積[11月] およその形と大きさ[11月] 割合を順序よく整理して[11月] 資料の調べ方[12月] 量の単位[1月]	

(3) 全体計画（学級における指導計画）

※学級経営案の一部として作成する指導計画例
平成〇〇年度

学級経営案

〇〇市立〇〇小学校

第〇学年 〇組 担任 〇〇 〇〇

1 教育目標

学校教育目標	<input type="checkbox"/> やさしい子 <input type="checkbox"/> 学ぶ子 <input type="checkbox"/> 健康な子
学年目標	<input type="checkbox"/> 友達と助け合える子 <input type="checkbox"/> よく聞き、考えを深められる子 <input type="checkbox"/> 元気に運動できる子
学級目標	<input type="checkbox"/> 友達と助け合える子 <input type="checkbox"/> よく聞き、考えを深められる子 <input type="checkbox"/> 元気に運動できる子

2 学級経営の方針 一略一

3 学級の実態

(1) 在籍児童数 一略一

(2) 児童の実態 一略一

4 経営の重点 一略一

5 道德教育の学級における指導計画

学級における児童生徒の道徳性の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・素直で優しく、何に対しても前向きに取り組む。 ・男女仲良く、言われたことはしっかりやりとげる。 ・自分の思いを主張するあまり、言葉がやや乱暴になってしまう。 	
担任・保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え行動し、節度のある生活をしようとする子になってほしい。 ・誰にでも思いやりの心をもって接する子に育てたい。 ・基本的な生活習慣をきちんと身に付けさせたい。 	
学級における道德教育の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても、思いやりの心で接することができる。 ・約束を守ることの大切さを知り、進んできまりを守ろうとすることができる。 ・基本的な生活習慣を身につけ、最後まで粘り強くやりぬくことができる。 	
具 体 的 な 計 画	好ましい人間関係を築く方策	・教師と児童、児童と児童の望ましい人間関係を作り、教室を何でも話せる場にする。
	基本的な生活習慣	・埼玉県「教育に関する3つの達成目標」規律ある態度の達成目標を身に付けさせる。
	道德科における指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えをもち、自由に発表し話し合うことで自分の考えをさらに深めさせる。 ・一人一人の発言を大事にし、これからの自分の生き方についても考えさせる。
	道徳性をはぐくむ教室の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の作品を大切に、落ち着いた気持ちのよい教室環境をつくる。 ・生き物の世話をし、動植物を大切にすることを育てる。
	豊かな体験活動	・花の栽培、草花や虫、動物とのふれあいを通じ、自然に親しみ、生命あるものを大切にすることを養う。
他学級・学年との連携	・縦割り活動や集会活動を通じ、多くの人や他の学年の人とふれあうことで友達の大切さ、協力を養う。	
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信、学年通信、連絡帳、懇談会、家庭訪問等を通じて、相互理解を図り、家庭との協力体制を整える。 ・道德科の授業公開を実施する。（〇月〇〇日） 	

6 振り返り（反省・改善点）

1学期	2学期	3学期

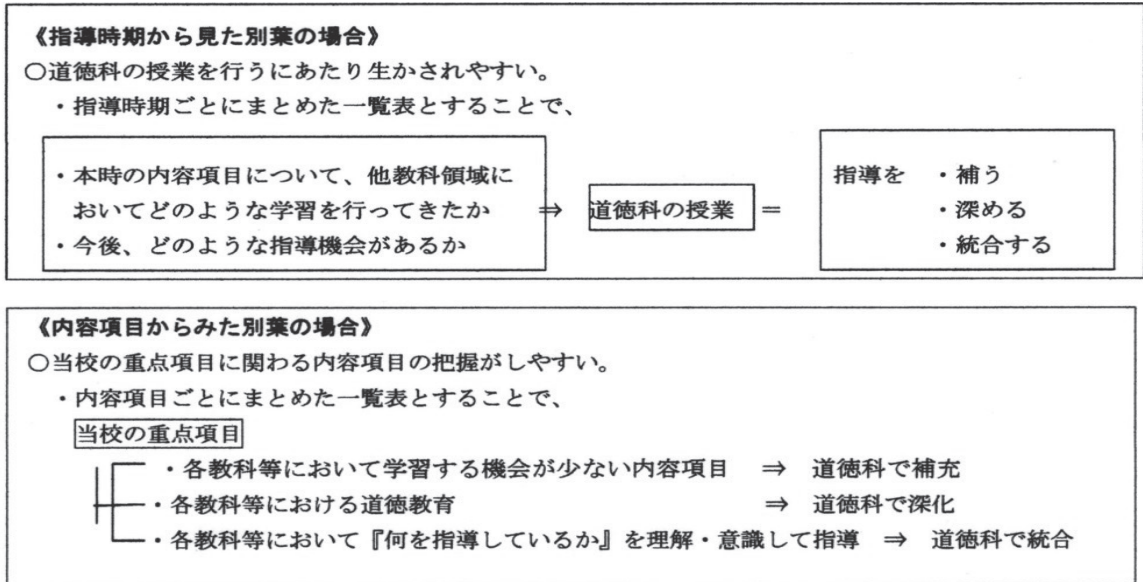
3 工夫、配慮事項等

(1) 全体計画（一覧表）の工夫、配慮事項等

- ① 校長が、明確な道德教育の方針を決める。
- ② 学校の道德教育の基本的な方針を全教師に示すため、学校教育目標の下に校長の道德教育の方針を位置付ける。
- ③ 道德教育推進教師を中心に全教師の協力指導体制を整え、道德教育の重点目標を決める。
- ④ 学校の重点目標をもとに、低学年、中学年、高学年、特別支援学級の重点目標を設定する。
- ⑤ 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動等における指導の内容・時期については、別葉で表す。
- ⑥ 学校で道德教育の目標を設定する場合、学校としてどんな子供を育成したいのかを明らかにする必要がある。そこで、教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策、学校や地域の実態と課題、教職員や保護者の願い、子供の実態と課題などを基に検討する。
- ⑦ 具体的な重点目標の設定後、重点目標のポイントが道德のどの内容に関わるのかを明らかにし、学校の教育活動全体でどのような指導をするのかを明らかにする。
- ⑧ 全体計画は、学校における道德教育の基本を示すものであるため、頻繁に変更することは適切ではないが、評価し、改善の必要があれば直ちにそれに着手できる体制を整えておくことが大切である。

(2) 全体計画（別葉）の工夫、配慮事項等

- ① 全体計画の別葉は、「指導時期」と「内容項目」から見て作成することができる。それぞれの特徴やよさを考え、学校の実態に合ったものを選択し、作成していく。
- ② 全教職員が道徳教育の視点を理解した上で指導にあたる必要があるため、教科・教科外部会や各学年などに呼びかけ、全教職員の参画によって作成する。
- ③ 以下に示す「指導時期から見た別葉の特徴やよさ」、「内容項目から見た別葉の特徴やよさ」を参考に、各学校がそれぞれに相応しい別葉を作成することが大切である。



4 全体計画に基づく指導における評価

(1) 全体計画（一覧表）に基づく指導による児童の道徳性に係る成長の様子等

子供の心の成長が確かめられるような機能的な全体計画になっているかという視点から全体計画の見直しを図る必要がある。

右記に示す全体計画の評価は、道徳教育の全体計画の中の重点目標に関わる子供の成長について評価を行っている例である。

このように、重点目標についての評価を全教師が毎学期末に行うようにする。道徳教育推進教師を中心に道徳部会で作された一人一人の教師の評価をまとめ、話し合う場を設けることによって、教職員の共通理解が一層強められる。

低学年・中学年・高学年別重点目標		
A 自分のことは、自分でできる子 (A善悪の判断、自律、自由と責任) B 友達と仲良くし、親切にする子 (B友情、信頼) C みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守る子 (C規則の尊重) D 植物にやさしく接し、生命の大切さに気づく子 (D生命の尊さ)	A 自分で考え、正しいと思うことは進んで行う子 (A善悪の判断、自律、自由と責任) B 誰に対しても思いやりの気持ちをもち、仲良く助け合う子 (B親切、思いやり) C 進んできまりを守り、人に迷惑をかけない子 (C規則の尊重) D 生命のあるものを大切にすること (D生命の尊さ)	A 強い意志で、正しい判断をして行動できる子 (A善悪の判断、自律、自由と責任) (A節度、節制) B 相手の気持ちや立場を考え、互いに尊重しあって生活する子 (B親切、思いやり) C 法やきまりを守り、自他の権利を大切にすること (C規則の尊重) D 生命の尊さを知り、自分や他の人々の生命を大切にすること (D生命の尊さ)

「全体計画重点目標に係る子供の成長の評価」

各学年の重点目標	評価の観点	評価(◎○△)	評価記入欄 改善方法
(低学年) みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守る子。	①学校生活や各教科の学習において、みんなが使うものを大切にすることができたか。	○	約束やきまりを守る大切さに気づき、みんなのことを考えてものを大切に使えた。しかし、中には自分のことが優先になってしまう子もいる。引き続き道徳科の学習を要しながら学校生活や各教科の学習で意図的に育てていきたい。
	②学校・地域行事や校外学習において、約束やきまりを守って行動することができたか。	◎	事前学習や高学年の姿を通して学んだことを生かし、約束やきまりを守って行動する姿が見られた。
	③互いの考えを大切にし、協力し助け合いながら問題解決が図られていたか。	△	自分のことが優先になり、友達の考えを受け入れることが

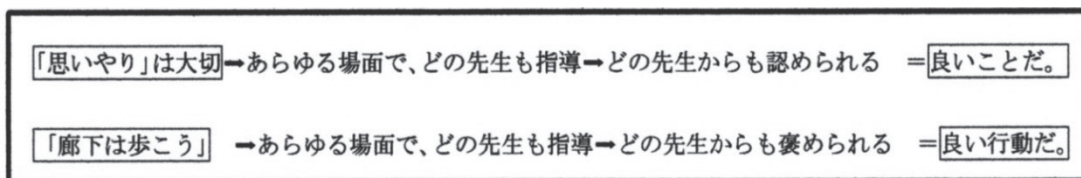
(2) 評価の仕方（評価の観点①の場合）

- ◎約束やきまりを守る大切さを理解し、「後から使う人が気持ちよく使えるように」「後から使う人の気持ちを考えて」など他の人を意識した言葉とともに行動が見られた。
- 約束やきまりを守る大切さに気づき、「なかよく、大切に」「約束を守って」「汚したり壊したりしない」など、みんなで使うものをどのように使えばよいのかについて、具体的な言葉とともに行動が見られた。
- △約束やきまりを守らず、自分本位でみんなが使うものを使っている。

(3) 全体計画別葉に基づく指導による児童の道徳性に係る成長の様子等

別葉によって、全教職員が育てたい道徳性や目指すべき児童像を共有することで、全教育活動において同じ道徳教育の視点を意識した一貫した指導が行われるようになる。その際に、教師が心がける

べき言動や指導方法などが共通化され、児童にとっても「よりよい心（行動）とは何か」が明確に示されるようになる。



○児童の道徳性が育まれることによって

- *各教科等では、それぞれの活動への望ましい取組の姿勢が見られるようになる。
- *学級、学校の雰囲気や人間関係が、思いやりのある望ましい集団になっていく。

(4) 職員会議や校内研修において「本校の道徳教育の評価」について話し合う機会を設定する
学期ごと、あるいは学年末等に、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、教職員が一堂に会して話し合う機会をもつことは極めて有効である。これが全体計画に基づいて行う道徳教育を評価し、改善することにつながる。

道徳科の授業の様子（学習状況）や、児童の道徳性に係る成長の様子、道徳の重点目標に係る児童の様子等を議題にして意見を交わすことができるよう職員会議や校内研修を計画するとよい。

5 全体計画をより実効性の高いものにするために

<各学校が課題を解決するための具体的な視点をもった取組の全体構想や実施計画案>

学校が課題を明確に設定し、その解決に向けて道徳教育を積極的に推進しようとする場合は、全体構想や実施計画案等を作成し、評価、改善を図って、道徳教育を一層充実させていくとよい。

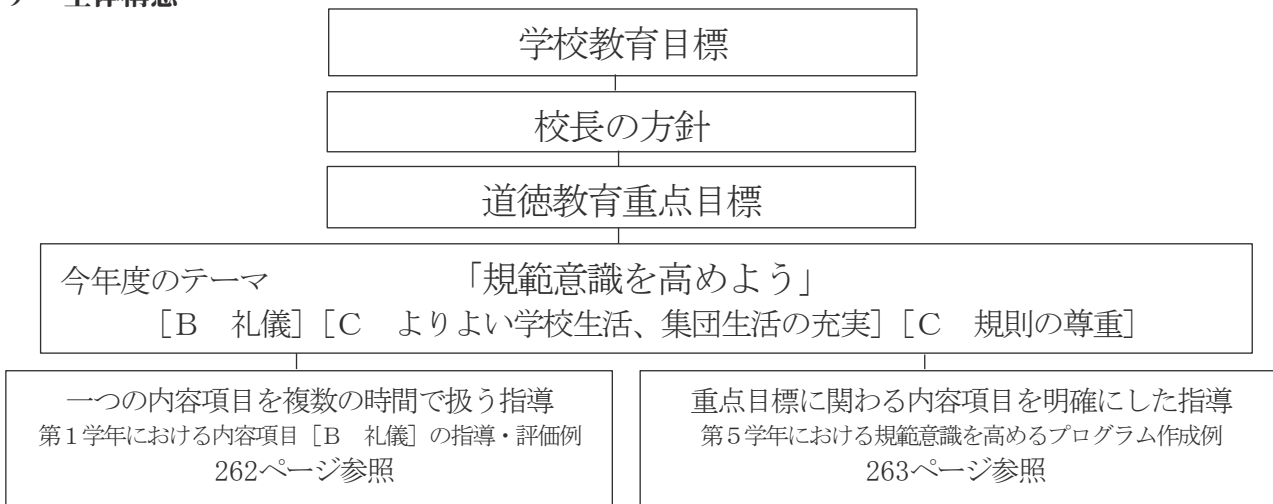
ここでは、「規範意識を高める道徳教育」「体験活動を生かした道徳教育」「家庭・地域社会との連携を重視した道徳教育」を例に挙げる。

(1) 規範意識を高める道徳教育

道徳教育においては、県で取り組むどう「規律ある態度」の育成をはじめ、人が互いに尊重し協働して社会を形成していく上で共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識などを育むことが求められている。道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育が、その重要な役割を担っている。

その際、「一つの内容項目を複数の時間で扱う指導」や「重点目標に関わる内容項目を明確にした指導」を取り入れるなどの工夫が必要である。

ア 全体構想



道徳教育

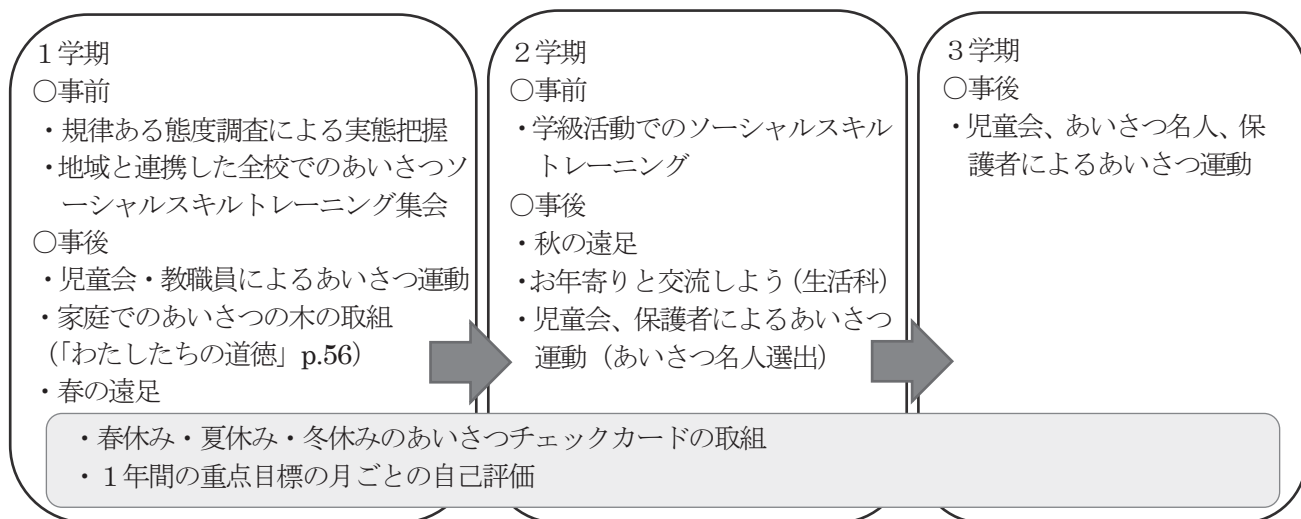
イ 「規範意識を高める道徳教育」に具備しなければならない要件

- ① 各学校の具体的な道徳教育の重点目標を設定し、目指す子供像を明らかにすることが大切である。
(例：互いを尊重し合い、しっかりと規範意識をもった人間に育ってほしい)
- ② 道徳教育の重点目標のポイントを明確にする。
(例：「規範意識」「よりよい集団生活」「礼儀」)
- ③ 道徳教育の重点目標のポイントに関わる道徳の内容項目を明確にする。
(例：[C 規則の尊重]、[C よりよい学校生活、集団生活の充実]、[B 礼儀])
- ④ 当該内容項目に関わる道徳科以外の指導を明確にするために、各学習活動や日常生活の中で当該内容項目に関わりどのように規律ある態度を含めた道徳性を養う学習ができるかを押さえる。

ウ 一つの内容項目を複数の時間で扱う指導

(第2学年における内容項目 [B 礼儀] の指導・評価例)

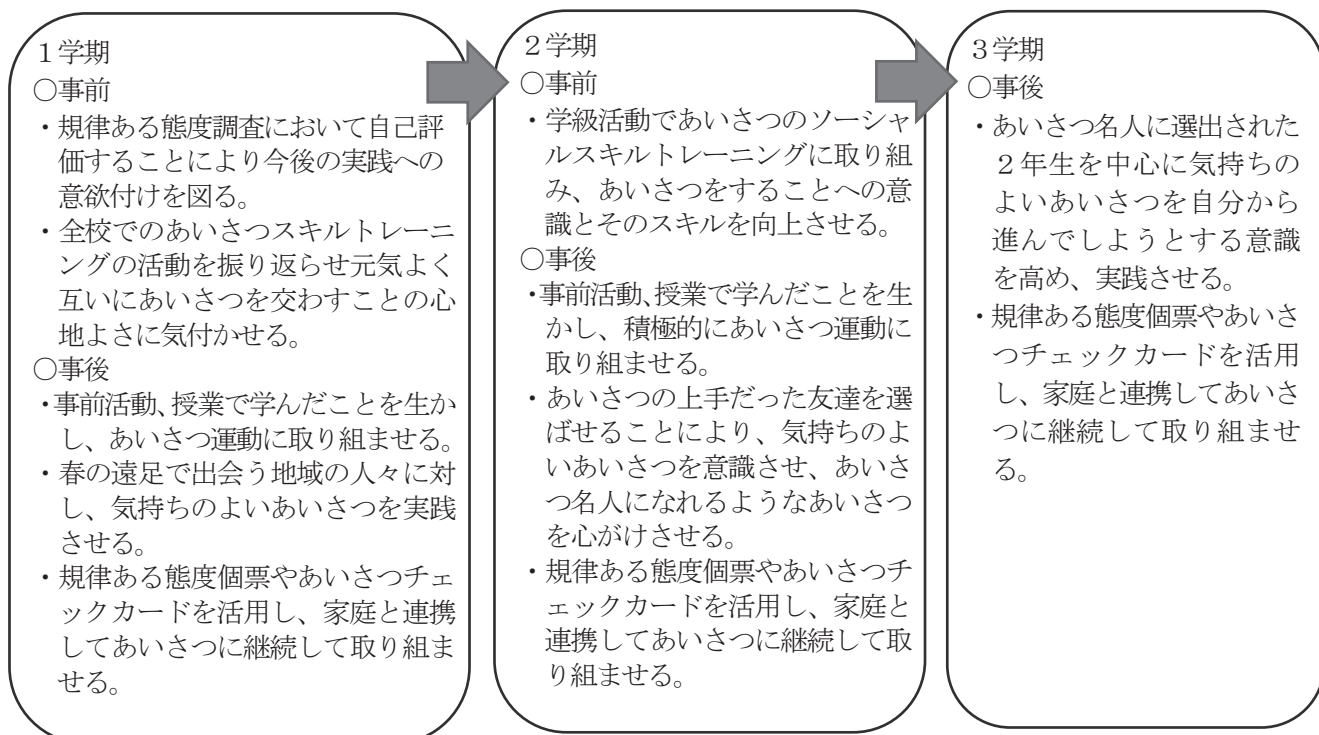
① 「規範意識を高める道徳教育」(規律ある態度「あいさつ」) 計画



<道徳科の授業>

- ・「きもちのよいふるまいを」[B 礼儀] (「わたしたちの道徳」 p.54,55)
→毎日の生活の中でのたくさんのあいさつをふきだしの中に書き入れ、自分の体験やそのときの気持ちを振り返る活動を通して、はきはきとした気持ちのよいあいさつの大切さを自覚し、人に明るく接しようとする実践意欲を養う。
- ・「たびに出て」[B 礼儀] (「わたしたちの道徳」 p.60)
→けいたや登場人物のさるたちの役割演技などの体験的な表現活動を通して、身近な人への気持ちのよいあいさつ、動作に心がけ、明るく接する態度を育てる。
→授業公開をすることにより、保護者のあいさつに対する意識を高め、実践に向けての連携を深める。
- ・「えがおであいさつ」[B 礼儀] (「彩の国のどうとく」 p.21)
→主人公の「わたし」の立場や気持ちを捉え、自分ならどうするかを考えさせる活動を通して、自分から進んで広く地域の人々に明るく接する態度を育てる。

② 工夫・配慮事項



③ 学校生活において見取った児童の行動等の様子

<p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気にあいさつすることの大切さを理解している。 ・学校生活の中で元気にあいさつしようとしている。 ・元気にあいさつしたり、友達に明るく接したりしていいこうとしている。 	<p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで元気にあいさつしようとしている。 ・学校だけでなく、地域・家庭でも意識してあいさつしようとしている。 ・時と場に応じた気持ちのよいあいさつを意識してしようとしている。 ・友達のあいさつの様子と自分のあいさつを比べながら、よりよいあいさつを意識している。 	<p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して、気持ちのよいあいさつや動作、言葉遣いを心がけている。 ・年間を通して元気にあいさつしたり、友達に明るく接したりしている。
---	--	---

④ 評価に基づく改善のポイント

- ・地域・家庭を意識したあいさつ
- ・心と形が一体となったあいさつ

⑤ 改善した計画（例）

- ・保護者参加型の授業
- ・年間を通して「あいさつ」への意識を高めさせる取組の工夫
「規律ある態度個票の活用」「自己評価カードの改善と活用」「地域・家庭との連携」

⑥ 考察

礼儀は、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体になって表れてこそ、そのよさが認められる。あいさつにおいても心が礼の形になって表れることであり、あいさつをすることによって、自分も相手も気持ちよく過ごせるようになる。

指導に当たっては、日常生活を送るために欠かせない基本的なあいさつなどについて、具体的な状況の下での体験を通して実感的に理解を深めさせ、外出時や公共の場での振る舞い方など社会との関わりの中での礼儀についても考えさせていく。

評価においては、児童の成長を見守り、努力を認め、励ますことにより、児童が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるように年間を通して行っていく。特に個人内の成長の過程を重視した評価を行っていく。

エ 重点目標に関わる内容項目を明確にした指導

（第5学年における規範意識を高めるプログラム作成例）


① 「規範意識を高める道徳教育」計画

ねらい： 自分も相手も大切にし、みんなが気持ちよく過ごせる学級をつくっていいこうとする態度を養う。

各教科	国語科「意見こうかん会をしよう」 体育科「バスケットボール」 社会科「情報を生かすわたしたち」
教育活動 学校行事等	・親善球技大会 ・学級活動ソーシャルスキルトレーニング「あいさつ」 ・学級活動「よりよい学級にするために」
道徳科	[C よりよい学校生活、集団生活の充実] 「小川笹船」（私たちの道徳） →笹船の生き方について考えることを通して、自分の役割の意義を理解し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を育てる。 [B 礼儀] 「人間をつくる道—剣道—」（私たちの道徳） →礼儀に込められた思いや礼儀の意義について考えることを通して、礼儀正しくまごころをもって接しようとする態度を育てる。 [C 規則の尊重] 「きまりは何のために」（私たちの道徳） →明と鉄男の言動からきまりの意義について考えることを通して、きまりを守ることの大切さを理解し、進んできまりを守ろうとする態度を育てる。
家庭との連携	・宿題で、道徳の授業の内容について考えたことや実践したことを道徳ノートに記述する。 ・家族と一緒に取り組むあいさつ週間を実施する。 ・「私たちの道徳」を活用し、社会のきまりやマナーについて家族と話し合う。

② 工夫・配慮事項等

○ [C よりよい学校生活、集団生活の充実]

<p><各教科・教育活動等> 国語科「意見こうかん会をしよう」 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分と異なる意見や立場も広い心で受け止めることを通して、互いの違いを認め合い理解することでよりよいものが生まれるといったよさについて考えさせる。 学級活動「よりよい学級にするために」 学級生活をよりよくするためのきまりをつくり、そのきまりを守る活動を通して、集団を支えているのは自分たち自身であるということに気付かせ、集団における自分の役割について考えさせる。</p>	<p><家庭との連携> 授業後、家庭で「私たちの道徳」p.140～p.145を読み、集団の中での自分の役割について考えさせ、p.143に記入する。その際、保護者の方に協力をお願いし、家族の一員としての自分の役割も自覚できるような声かけをしてもらう。</p> 
--	---

○ [B 礼儀]

<p><各教科・教育活動等> 体育科「バスケットボール」・親善球技大会 試合前や試合後の礼を通して、礼儀作法の形にこめられた相手を尊重する気持ちについて考えさせる。 学級活動「あいさつ」(ソーシャルスキルトレーニング) 気持ちのよいあいさつの仕方について体験的に学ぶことを通して、相手の立場や気持ちを考えた心のこもった接し方について考えさせる。</p>	<p><家庭との連携> 授業後、家庭に協力をお願いし、1週間家族で決めたあいさつの目標にむけて取り組み、日常生活でのあいさつの習慣化を図る。</p>
--	---

○ [C 規則の尊重]

<p><各教科・教育活動等> 社会科「情報を生かすわたしたち」 情報活用のルールやマナーについて考える活動を通して、法やきまりのもつ意味などについて考えさせる。</p>	<p><家庭との連携> 授業前、家庭で「私たちの道徳」p.122～p.123を読んで、社会のきまりやマナーについて家族と話し合うことで、社会生活上のきまりや基本的なマナーやモラルなどの倫理観を育てていく。</p>
--	---

③ 学校生活において見取った児童の行動等の様子

<p>[C よりよい学校生活、集団生活の充実] ・集団をよりよいものにしていくためには、集団の中での自分の役割を考えて、一人一人が自分の責任をしっかりと果たすことが大切であると気付いている。</p>	<p>[B 礼儀] ・礼には相手を敬うという意味があることに気付き、一つ一つの礼儀に心を込めたいという思いをもっている。</p>	<p>[C 規則の尊重] ・きまりは、みんなの権利を守るためにあることに気付き、自分の行動を振り返り、きまりやマナーを守ることの大切さを考えている。</p>
--	---	---

④ 評価に基づく改善のポイント

- ・活動後の児童の感想に、相手の立場を尊重する大切さに関わる内容が多かったため、関連する内容項目である、[B 相互理解、寛容]についても重点を置いた指導を行っていく。
- ・児童の意識は、活動ごとに終結するものではなく、一つ一つの活動が、相互に関連し合っているという意識をもち取り組むことで、内容項目のつながりや、重点目標の意識づけができる。特に、特別活動の役割に重点をおいた指導につなげたい。

⑤ 改善した計画 (例)

- ・ねらいに関わる内容項目の選択
 [C よりよい学校生活、集団生活の充実] [B 礼儀] [C 規則の尊重] に [B 相互理解、寛容] の内容項目を道徳科の授業に取り入れる。
 道徳科の授業では、「ブランコ乗りとピエロ」(「私たちの道徳」)の教材を活用し、サム(相手)の立場を考えて受け入れることのできたピエロの思いを考えることを通して、自分と異なる意見や立場を受け入れることの難しさやよさを知り、広い心で相手を大切にしようとする心情を育てる。
 総合的な学習の時間「福祉の心を育てよう」と関連させ、互いの違いを認め合い理解しながら、他者を尊重する態度を育てていく。
- ・ねらいに関する児童の意識が連続するような事前事後の学習活動等の検討
 (体験活動や道徳的実践の場でもある特別活動の位置付け等)

⑥ 考察

道徳における学習は長期的・総合的視点からの評価と指導が必要であるため、重点目標(規範意識)に絞って取り組むことは効果的である。
 規範意識を高めるというねらいのもと、特別活動や総合的な学習の時間で実践的・方法的学習、各

教科で知的・実践的学習を重視するとともに、要としての道徳科で内面を耕すことで、道徳教育を推進することができる。

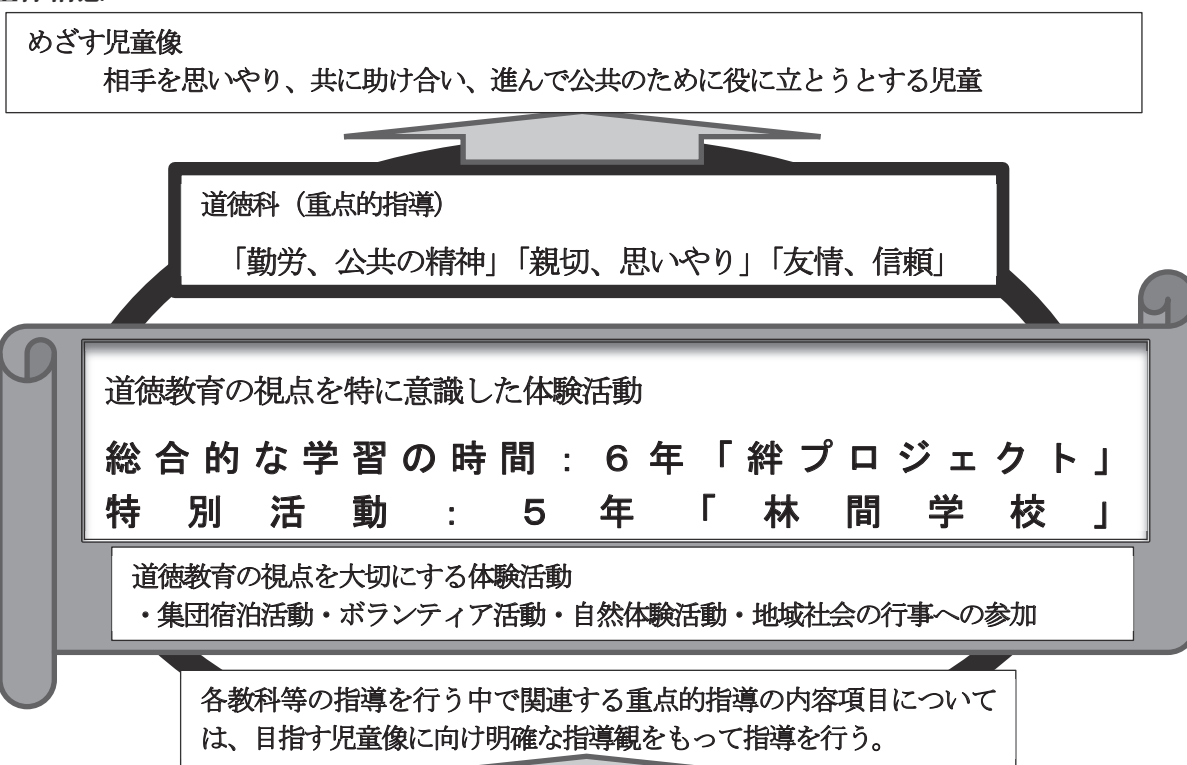
様々な道徳的課題（いじめ、情報モラル、環境問題、国際化等）に応えられるような学習プログラムを作成し、学校全体で重点的に取り組むことができる。

(2) 体験活動を生かした道徳教育

道徳性を養うための配慮事項に、豊かな体験活動を充実させることが求められており、児童の心に響く直接体験を大切に活動等を積極的に取り入れるよう努める必要がある。

体験活動を重視した道徳教育を推進するためには、その意義や役割を明確にし、全教職員の共通理解のもとで進めていくことが大切である。また、目指す児童像に効果的に到達するために道徳教育の視点を特に意識した体験活動を選択して進めていくことが重要である。

ア 全体構想



児童の実態

- ・言われたことに対してよく働ける児童であるが、進んで公共の役に立つことをしようとまでは意識できていない。
- ・友達と仲良くできる児童が多いが男女仲良くできるまでには到っていない。
- ・人に対して親切にすることはできるが相手の立場に立って親切にするまでには至っていない。

イ 「体験活動を生かした道徳教育」に具備しなければならない要件

- ① 児童の実態を把握し、目指す児童像を明らかにする。
- ② 学校や地域の特色を生かした体験活動を決める。
- ③ 道徳教育の視点を特に意識し、意図的に行う体験活動を決める。
- ④ 内容及び時期を明確にした実施計画を作成する。
- ⑤ 実施するための学校としての指導体制をつくる。
- ⑥ 事前・事後指導との効果的な関連を図り、体験を生かした道徳科の授業を実施する。

ウ 総合的な学習の時間における体験活動の例

- ① 6年生 「絆プロジェクト」
- ② 目標（※抜粋）
 - ・学習方法に関すること
活動の後に振り返り、成果と課題を踏まえて、さらによりよく次の活動に取り組むことができる。
 - ・自分自身に関すること
高齢者や幼児との交流を通して、他者と関わる喜びやボランティア精神の大切さを考えることができる。
活動を通して福祉の精神を感じ取り自分にできることを考えることができる。

③ 評価

- ・高齢者と触れ合い、その人の願いや喜びを知ることができる。
- ・活動を通して福祉施設の大切さやそこで働く人々の思いを知ることができる。
- ・自分も福祉活動に参加できることに気付くことができる。
- ・高齢者に接する時の態度やマナーについて考えることができる。

	○総合的な学習の時間の 学習内容 ☆評価	道徳教育の視点 (★内容 ・工夫配慮事項)	道徳科
ふれる	<p>○単元の学習内容を知る。 単元の趣旨と活動の概要を知る。</p> <p>○高齢者施設について調べる。</p> <p>○高齢者施設の方の話を聞きどのような活動ができるかを考える。</p> <p>☆福祉施設の役割や働く人々の思いを調べまとめることができる。</p>	<p>★C 規則の尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設からパンフレット等をもっておき、施設でのきまりや、マナーについて具体的に考えられるようにする。 ・分からないことは、高齢者施設で働いている方に質問をし、自分たちができる活動を考えさせる。 	<p>C 規則の尊重</p> <p>「法やきまりを守って」を導入で活用し、問題意識をもたせる。</p> <p>出典：「私たちの道徳」</p>
つかむ	<p>○イメージマップを作成しその中から自分達のできそうな内容についてピックアップする。</p> <p>○身の回りにいる高齢者からどんな活動が喜んでもらえるかを調べてまとめる。</p> <p>○イメージマップと合わせて具体的に活動可能な内容をまとめる。</p> <p>○自分の活動する内容を決める。</p> <p>○活動内容をいくつかに絞り全体で発表する。</p> <p>☆友達との意見交換を通して自分の考えを表現している。</p> <p>☆課題を解決するために適切な活動を決めることができる。</p>	<p>★B 親切、思いやり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップから活動内容を絞る際に、お年寄りの立場に立って考えながら決めさせる。 <p>★B 相互理解、寛容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を無理に通そうとするのではなく、他の人の意見も聞きながら、話合いを進めさせる。 	<p>B 親切、思いやり</p> <p>「相手の立場に立って親切に」を活用する。</p> <p>出典：「私たちの道徳」</p> <p>B 相互理解、寛容</p> <p>「ブランコ乗りとピエロ」を活用し、異なる意見や立場を大切にすることについて主人公の生き方を通して考える。</p> <p>出典：「私たちの道徳」</p>
活動する	<p>○活動内容を選択し、活動グループを作る。</p> <p>○具体的な活動に向けてめあてや役割分担や活動内容を考え決定する。</p> <p>○リハーサルを行う。</p> <p>○意見をもとに修正する。</p> <p>○高齢者施設で活動する。</p> <p>☆自分も福祉活動に参加できることに気付き、行動しようとしている。</p> <p>☆高齢者に接するときの態度やマナーについて考え、マナーの大切さが分かる。</p> <p>☆高齢者と触れ合い、その人の願いや喜びを知ることができる。</p>	<p>★A 希望と勇気、努力と強い意志</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画したことに対して、勇気をもって活動させ、多少失敗しても、最後までやり遂げさせるようにする。 <p>★B 礼儀</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と実際に接するとき、正しい言動がとれるよう事前に調べたことを思い起こさせるようにする。 <p>★C 勤労、公共の精神</p> <p>・<u>社会に奉仕することの充実感を味わい、その意義を理解し、これからも公共の役に立とうとする気持ちを高められるようにする。</u></p> <p>→道徳科で振り返る</p>	<p>A 希望と勇気</p> <p>「道ひとすじに」を活用し、自分の目標に向かって努力することの大切さを考える。</p> <p>出典：「彩の国の道徳 夢にむかって」</p> <p>B 礼儀</p> <p>「江戸しぐさに学ぼう」を活用し、今までの自分の振る舞いに真心が込もっていたかを振り返る。</p> <p>出典：「私たちの道徳」</p> <p>C 勤労、公共の精神</p> <p>「光る歩道」を活用し、みんなのために働くとはどういうことなのかを考える。</p> <p>出典：「彩の国の道徳 夢にむかって」</p>

まとめ	<p>○自分達の活動についてのふりかえりをする。</p> <p>○自分達の活動の報告をする。</p> <p>○施設の方や相手をしてくれた人達へ御礼の手紙を書く。</p> <p>☆既習の学習を生かして、調べたり考えたりしたことを表記したり、発表したりすることができる。</p>	<p>★C 勤労、公共の精神</p> <p>・勤労が、自分のためだけでなく、社会生活を支えるものであることに気付かせる。</p> <p>★B 感謝</p> <p>・お世話になった高齢者施設の方へ、感謝の気持ちが伝わるお手紙を書かせる。</p>	<p>C 公共の精神</p> <p>「公共のために役立つことを」の「三方良し」を導入で活用する。</p> <p>出典：「私たちの道徳」</p> <p>B 感謝</p> <p>「支え合いや助け合いに感謝して」の「ありがとう」を導入で活用する。</p> <p>出典：「私たちの道徳」</p>
-----	---	---	---

④ 評価に基づく改善のポイント

- ・体験活動を生かした道徳科の授業を展開する。

⑤ 改善した計画（例）

- ・道徳科の授業

B 親切、思いやり「相手の立場に立って親切に」を活用し、お年寄りの立場に立って考えた体験を振り返って自分の行動について話し合う。（出典：「私たちの道徳」）

C 勤労、公共の精神「光る歩道」を活用し、みんなのために働くとはどういうことなのかを高齢者との触れ合いを振り返りながら考える。（出典：「の国の道徳 夢にむかって」）

⑥ 考察

体験活動を効果的に進め、道徳性をより効果的に高めるためには経験したことが自分にとって何だったのか内省することである。そのことにより活動したことが整理され、自分の生き方を改めて考え、実際のよりよい行動につなげることができる。

体験活動を生かした道徳教育を進めていくためには道徳的視点を体験活動の中に明確に位置付けることでより充実したものになる。総合的な学習の時間では、人と関わるができるようにし、関わる相手も多様なものとなるように計画して、「親切、思いやり」「勤労、公共の精神」についても考えさせていく。また、評価において、児童がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ますような個人内評価を重視していく。

エ 特別活動（学校行事：集団宿泊的行事）における体験活動の例

① 題材名 5年生「林間学校を有意義な活動にしよう」

② 目標

自然の中での集団宿泊活動を通して、自然や文化に親しむとともに、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を重ねることで、お互いを思いやり、ともに協力し合い、支え合うなどの望ましい人間関係を築く態度を育てる。

③ 評価規準

- ・集団活動や生活への関心・意欲・態度

自然や文化などに関心をもち、互いを思いやり、積極的に遠足・集団宿泊的行事に取り組もうとしている。

- ・集団の一員としての思考・判断・実践

学校や学年の一員としての自覚をもち、平素と異なる生活環境での望ましい人間関係や行動の在り方などについて考え、判断し、協働して実践している。

- ・集団活動や生活についての知識・理解

遠足・集団宿泊的行事の意義や、校外における集団生活の在り方、公衆道徳などについて理解している。

④ 活動の概要

本活動は、2泊3日の集団宿泊活動を通して、自然に親しませるとともに、集団における規律、協力、助け合いの心を育て、集団宿泊活動を通して、よりよい人間関係を築くことを目的として行っている。活動内容としては、現地についての班別オリエンテーリング、カレーライス作り、森林に囲まれたキャンプファイヤー、ダムまでのハイキング、星空に囲まれた天体観測、地元の食材を使ったおやつ作りなどが組まれている。また、5分前行動、来た時よりも美しく使うマナーの徹底、しっかり食べてしっかり寝るなど、楽しい宿泊活動の中にも規律をしっかり守ることを大切にしている。

特別活動（主な活動）	道徳の視点（★内容・工夫配慮事項）
<p>共同して1日目</p> <p>1 班別オリエンテーリングをしよう。</p> <p>2 カレーライスを作ろう。</p> <p>3 キャンプファイヤーを成功させよう。</p> <p>4 就寝の時間を守ろう。</p>	<p>★B 友情、信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女協力して、ポイントをさがせるように働きかける。 ・班は事前に人間関係を考慮して、男女混合にする。 ・安全面に配慮する。 <p>★C よりよい学校生活、集団生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレーを作る人、ご飯を炊く人、火を管理する人など、それぞれの役割の大切さに気付かせる。 ・それぞれの担当が頑張りに感謝できるようにする。 <p>★C よりよい学校生活、集団生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス関係なく、相手のことを考えて出し物を見たり、ダンスを楽しんだりする。 ・日頃から、男女が自然と手をつないだり、ペアを作ったりすることができるようにしておく。 <p>★A 自主、自立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守って就寝する意義について考えさせる。 ・きちんと寝ることは、友達や自分の体調を守ることであり、明日のハイキングを安全に実施することにつながることを考えさせる。 ・事前指導で、きちんと寝ることの大切さを指導する。
<p>2日目</p> <p>1 ハイキングに行こう。</p> <p>2 家族にハガキを書こう。</p> <p>3 天体観測をしよう。</p>	<p>★B 思いやり、感謝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女関係なく、みんなで協力して安全にハイキングできるように意識をもたせる。 ・遅い子のペースを考えて歩くように指導する。 ・荷物を持ったり、様子を見て休憩を入れたりするように働きかける。 ・励ましの言葉を使うことのよさを考えさせる。 <p>★D 自然愛護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の中を歩きながら、山の自然の美しさに感動する気持ちを大切に作る。 ・自然環境を大切にしたいという気持ちを育てる。 <p>★C 家族愛、家庭生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林間学校に来ている様子を伝え、家族に来させてもらったことへの感謝の気持ちが伝えられるようにする。 <p>★D 感動、畏敬の念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で協力して、望遠鏡を設置する。 ・夜空に広がる星の美しさに感動する気持ちを大切に作る。 ・人間の力を超えた、宇宙の偉大さを感じる心をもつ。
<p>3日目</p> <p>1 お世話になった施設を掃除し、後片付けをしよう。</p>	<p>★C 勤労</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で、きれいにするにはどうしたらよいか清掃の手順を明確にする。 ・3日間使わせていただいたという気持ちや、次に使う人の気持ちになって掃除をする。 ・友達と協力して、担当の場所を進んで清掃する。

⑤ 評価に基づく改善のポイント

- ・1日目、2日目、3日目でそれぞれ感じたことを書く時間を設けている。道徳の視点を意識したワークシートを工夫し記入させ、どの児童が、どんな場面で、どんな感じ方をし、どう変容したのかがわかるようにする。

⑥ 改善した計画

- ・ワークシートの文言を、道徳の視点を意識したものに改善した。

ワークシートの文言例

- ・班別オリエンテーリングは男女協力して活動できましたか。
- ・自分の役割を考慮してカレーライス作りができましたか。
- ・ハイキングに行ってみてどんなことが大事だと感じましたか。
- ・その他で自分が成長したと感じた事やこれからに生かしていきたいことを教えてください。

⑦ 考察

多様な人間関係の中で他の人との人間的な触れ合いを豊かにもつことによって「親切、思いやり」「友情、信頼」に関わる道徳性を高めていくことができる。

学校行事の体験活動で重視すべき活動は、事前にそのねらいや意義を踏まえて活動のめあてや活動計画を話し合っ決めて活動や、活動後に体験したことを振り返り、視点を明確にして自分の言葉でまとめたり、発表したりする活動である。学校行事を通して、体験したことをより豊かに表現する力や体験したことについて、自分の思いを込めて伝える力も育成することができる。

さらに、書く活動を取り入れることにより、自分の思いと向き合う時間がうまれる。頭の中で考えたことを、文字にして自分の思いを見つめることで、感じたことや思ったことをより深くすることができる。また、書いたものが後で見えてわかるように、発達の段階に応じて「ノートにする」「ファイルにする」など工夫をして保存しておくといよい。

(3) 家庭や地域社会との連携を重視した道徳教育

自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性は、学校生活だけでなく家庭や地域社会においても、児童の具体的な行動を支えるものである。そのため学校は、家庭や地域社会との連携、協力を密にし、共通理解を図ることによって、道徳教育を強化させることが大切である。

ア 全体構想

道徳教育の全体計画の「家庭・地域社会との連携」を受け…

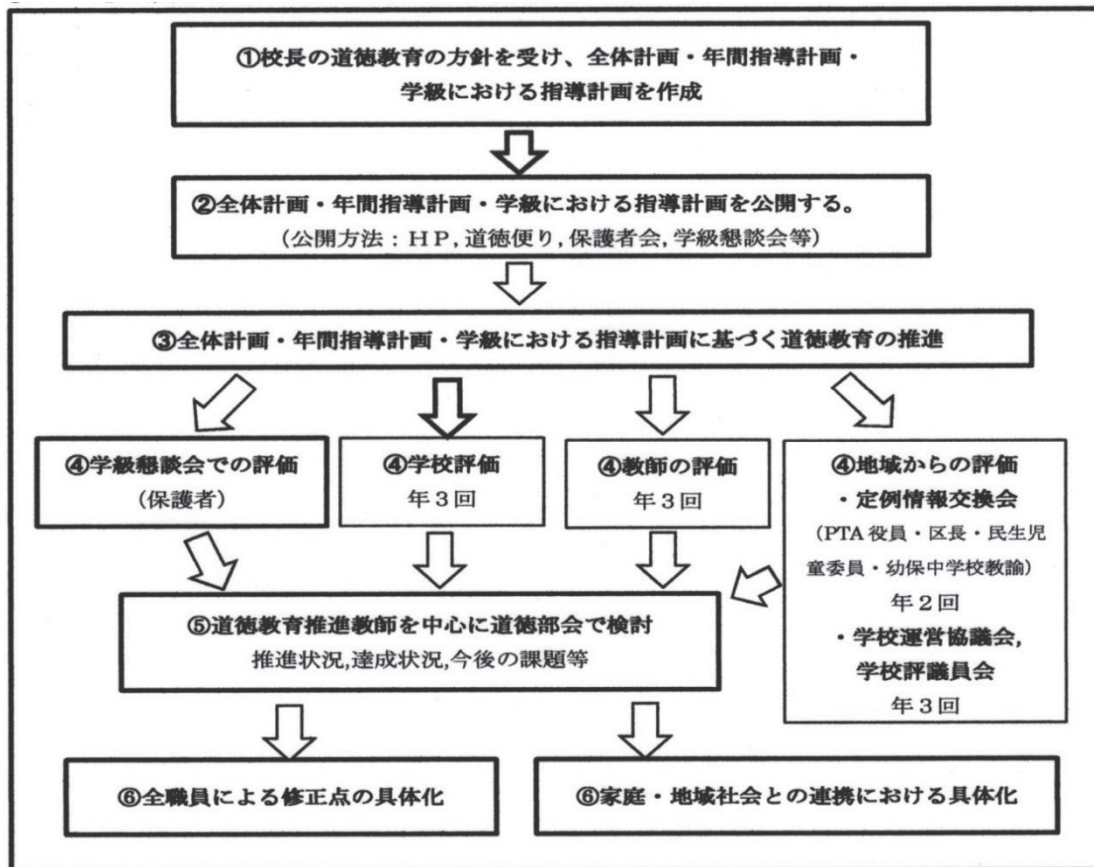


道徳教育

イ 家庭や地域社会との連携を重視した道徳教育の評価

道徳科の妥当性、信頼性等の確保のためには、保護者はもちろんのこと地域の方の理解を得ることが重要である。そのためには、「家庭と地域社会との連携 全体構想」の実践だけでなく、評価においても計画的に取り組む必要がある。

家庭や地域社会との連携を重視した道徳教育の評価計画



ウ 参考

・学校行事の目標の中に、道徳の視点を取り入れる

学校行事の目標に道徳の視点を入れた目標を掲げ、意図的・計画的に取り組むことにより、全教職員の道徳教育の意識を高めることができる。学校行事に向けた様々な取組の中で道徳教育を実践することで、児童の道徳性をさらに養うことができる。

平成〇〇年度 〇〇小学校 春のなかよし遠足について

1 目的

- 異学年集団（縦割りグループ）で活動することにより、規律を身につけ、自主性、思いやりの心を育てる。
- △△△の自然に触れ、自分が住む町への親近感や関心を持たせる。
- 自分の足で歩くことによって、健康の増進と体力の向上を図る。

(道徳教育の視点)

- 高学年は、下級生の立場に立って親切にすることによって、思いやりの心を育む。
- 低学年は、上級生への感謝の気持ちをもつとともに、自分も上級生のように学校みんなのために進んで働こうという心を育む。
- 自分が住む場所にある自然の素晴らしさや不思議さを感じ取る体験をととして、自然を大切にすることを育てる。

6 考察

学校における道徳教育は、その目標である道徳性を養うために、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであることから、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。(小学校学習指導要領第1章総則) つまり、道徳教育を充実させるためには、全体計画(別葉を含む)が必要なる理由がここにある。

道徳教育を意図的・計画的に実施するためには、実効性のある全体計画(別葉を含む)、課題解決のための全体構想、実施計画案を作成することが極めて重要であることを改めて確認しておきたい。

参 考

通知表、指導要録に記載する道徳科の評価欄の記入例

道徳科における評価の基本的な考え方については、『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)(平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)に示されている。特に、道徳科の特質を踏まえて確認しておかなければならないことは、次のとおりである。

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと
- 学習活動において児童がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 道徳科の学習活動における児童の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること

ただ、気を付けておかなければならないことは、「個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること」について、これは、授業したすべての内容項目を一つ一つ評価することは道徳科の特質から考えて好ましいとは言えないことを述べたものであって、道徳科の授業で顕著な発言があったことを記載してはいけなことを意味しているものではない。改めて確認しておく必要がある。

【通知表、指導要録の記載例】

- ペアやグループでの話し合いでは、いつも積極的に考えを述べています。○○さんの発言から新しい見方が広がります。例えば、思いやりについて考えた授業の中で「相手のために思った行動とは、すべてを正直に言うことではなく、相手を見守ることも友情には必要だ」と発言し、多くの友達を納得させていました。
- 自分の経験と結び付けながら道徳的な価値についての考えを深めている姿が見られました。特に、生命の大切さを取り上げた授業の振り返りでは、亡くした祖父の思い出を語りながら、おじいちゃんの前まで一生懸命生きたいとみんなの前で発表し、とても感心しました。
- 教材に登場する人物に自分を重ね合わせて考えていました。例えば、正直・明朗について考える授業の最後に、自分も教材の登場人物と似た経験をし、その時に勇気をもって謝ったことを発表し、みんなに拍手をされていました。
- 望ましいことと分かってはいてもできないことがある人間の弱さも含めて道徳的な価値について深く考える姿が見られました。例えば、友達との関わりについて考えた授業では、悪口を言うことが自分にもあることに目を向けながらこれからの自分の在り方を前向きに見つめていました。
- 授業を通して自分が考えたことや考えが変わったことなどをしっかりと道徳ノートに書いています。例えば、思いやりについて友達の意見を聞くうちに、手助けするだけではない様々な思いやりの形に気づき、「これからも友達や下級生を見守っていききたい」との思いを記入していました。
- 教材に描かれた道徳的な問題場面について、考え、話し合う中で、自分なりの納得解を得ていました。例えば、誠実について考えていく中で、「自分の心にうそをつかない」という自分なりの結論にたどり着き、これからの生活に生かしていこうとする記述が見られました。
- 道徳的な価値の大切さについて、友達と話し合う中で自分なりの考えを深めていました。特に、生命はなぜ大事なのかを考える授業では、自分の考えをもち、友達と様々に議論する中で、「生命のつながり、かけがえのない生命」だから大事であると納得していました。
- 話し合う中で友達の多様な考えを聞き、新たな気づきを得ることが多くあったようです。本当の親切とは何かを考えた授業の時も、始めは「手伝うこと」「何かしてあげること」が親切だと言っていた○○くんでしたが、学習していく中で、更に「見守ること」も親切であると考えを広げていました。
- 授業で取り上げた道徳的な価値を身近なものとして捉え、真剣に考える姿が見られました。特に、生命に関する授業では、お家の人からの手紙を何度も読み返し、涙を浮かべていました。生まれてきてよかった、嬉しかったという思いのこもった手紙を書いていました。
- 話し合いを通して、道徳的な価値に対する考えを深めているようでした。例えば、生命について考える授業では、生命を大切にすることは自分のためだけでなく、自分を大切に育ててくれた家族のためでもあり、生命はつながっているからこそこれからの生き方も大切にしなければならないという深い考えに至っていました。
- 道徳的な問題について話し合う中で、様々な視点から自分の考えを深めていました。例えば、自由について考える授業では、ペアやグループでの話し合う活動を通して、自分勝手な自由とは違い、周りのことも考えた自由が大事だと考えていました。
- 抽象度の高い道徳的な価値を具体的にイメージして理解しようとしていました。例えば、「命の大切さ」について考える授業では、新聞記事などを活用して調べ、命はかけがえのないものであることへの考えを深め、更に、友達の発言を聞き、「命のつながり」についても考えを広げていました。